

時 論

2021・12・9

弘前・岩木健診データ

世界の健康貢献に期待

弘前大学が中心となって実施している「岩木健康増進プロジェクト」の健診が今年で17年目を迎えた。産学官民の連携によりこれまで測定・蓄積してきたデータは、本県の短命県返上にとどまらず、世界の健康づくりにも貢献している唯一無二の健康人ビッグデータに成長し、国内外から高

05年に岩木町(現弘前市岩木地区)で始まった健診は13年、文部科学省が推進するC O I(革新的イノベーション創出プログラム)採択を受け一気に加速した。費用のかか

平均寿命を長年維持している長野県と約2歳半の平均寿命差は、さほど大きくないと感じがちだが、働き盛りの40代をはじめ、各年代で死亡率が高いのは深刻だ。

本県の死亡者は、がん、心臓病、脳卒中の三大生活習慣病が7割を占めるが、肺がんの原因がタバコだけではない

の平均寿命を長年維持している長野県と約2歳半の平均寿命差は、さほど大きくないと感じがちだが、働き盛りの40代をはじめ、各年代で死亡率が高いのは深刻だ。

本県の死亡者は、がん、心臓病、脳卒中の三大生活習慣病が7割を占めるが、肺がんの原因がタバコだけではない

く、すべての面で健康的とは言い難い。この点を踏まえれば、平均寿命の差は生活習慣の総合点の差といえる。長野県の強みは食生活改善など健康づくりに関わる民間リーダーが10万人に及ぶことだ。長期にわたる潜伏期間がある生活習慣病改善には、小学生や就学前からの健康教育が必要

で、取り組みも始まっている。短命県返上運動と併せて体制を整えれば、そこに住んでいるだけで自ずと健康になる。そんな世界観を発信できれば素晴らしいことだ。

岩木健診は幅広いデータ収集により、あらゆる分野の産官学民と連携できる間口の広さを持つ。同健診をきっかけ

い評価を受けている。多くの大学や研究機関、民間企業が続々と参画し、データを基にした新たなビジネスも視野に入れている。本県発のデータ活用イノベーション(技術革新)がもたらす医療、経済をはじめとした幅広い分野への貢献に期待が集まっている。短命県返上を目的に、20

横に及ぶ。実施には住民の協力が不可欠だが、数時間に及ぶ健診にも「死ぬまで協力したい」と話す人がいるなど、住民との信頼関係が財産だ。本県の平均寿命は、全国1888市区町村中、男性で全市町村がワースト90位内、女性も同100の中に3分の2が入っている。トップクラス

長野県も塩分摂取量が多

に全国の大学等研究機関で始まった戦略的多拠点間データ連携は大きく広がり、企業の注目度も一層高まっており、それらの成果は一般の健診や生活改善に生かされる。

企業等で行っているQOL(啓発)健診は県内、国内から海外に波及し、ベトナム企業での実施も始まっている。

途上国では生活習慣病も増えつつあり、予防に資する知見の提供はSDGs(持続可能な開発目標)への貢献にもつながる。国が進める次世代医療基盤法に基づき、データ活用ができれば、AIや最先端の科学技術を駆使して予防の新しい形を作る精度はさらに高まるだろう。弘前大学が構築している「人とデータのプラットフォーム」は、想像を超えてる広がりを見せている。